

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ダンススタジオあろは		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 15日		～ R8年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	R8年 2月 15日		～ R8年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 21日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	音楽と身体表現を取り入れる事で子供たちの自己肯定感やコミュニケーション能力の向上を促している点は大きな強み今後は発表会や地域イベントへの参加など外部との接点を増やすことでさらに子供たちの社会性をはぐくむ	音楽選びや衣装照明などの工夫して子供たちの楽しめる時間づくりを意識	将来だけでなく、現在の生活の中での保護者様の不安や困りごとを聞き取り、必要な福祉サービスを教示して繋げていくことで、ご家庭での生活の一助となるようにしていく
2	リズム運動や体幹トレーニングを通じて発達段階に合わせた体づくりを支援している。私学療法士と作業療法士と連携してより専門的な運動支援の導入も今後の充実点として期待される	子どもの発達に応じて難易度を調整し小さな成功体験を積み重ねるプログラム設計をしている。褒めるタイミングや声掛けにも職員全体で統一感を持たしている。	資格、特技を活かした療育の中にも一つ一つこどもの課題や目標達成、成長の促しに向け、しっかりとねらいを立てた内容にすること、また、スキルアップを目指して療育内容も変化させていく
3	DANCEのジャンルを選べたり、振付を一緒に考えたりと個別性に配慮した取組がされている。今後は個別支援計画との運動をさらに強め学習面や日常生活スキルとの相乗硬化を高める	日々の連絡帳や動画共有を通じて家庭でも子供の成長を感じてもらえるよう工夫。保護者様の声も活動に反映しやすい体制作りにも取り組んでいる。	保護者参加型のイベントを増やすことで、こどもたちの頑張っている姿、成長した姿を見る機会を増やしていく。また、イベントを通して保護者同士の交流の機会が持てたり、きょうだい児への支援にも繋げていけるようにしていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動バリエーション	現在も事業所内においてダンスや運動などを中心に様々取り組んでいますが今後はより職員の強みや環境などにも考慮した活動を提案していく	定期的な室内外の安全点検は行なっているが、常に高い危機意識を持って安全確認ができるよう、更なる研修や日々の朝終礼の中で全職員からの気付きを得ていく
2	環境整備の見直し	事故や危険の報告はない物のより安全性追求をしていくために協議を重ねていく	書類業務は支援の土台であり、こどもたち一人一人の特性や成長を丁寧に振り返り、次の支援に活かす大切なプロセスが記録と書類整理であるという認識のもと、データ化できるものは更に進めていながら効率化を図っていく
3	支援記録・書類業務の効率化	保護者の皆様や職員の業務の中で効率的に行える方法の模索を考えて行く	定期的な懇談の継続、連絡帳や送迎時での情報共有を引き続きしっかり行いつつ、環境が大きく変わる状況や心身の変化が起こりやすい年齢、進路を考える時期などは特に積極的にこちらからも保護者様へのアプローチを行ったり、相談しやすい体制を整えていく